

## 平成21年度 第3回千葉県博物館協議会議事録

日 時 平成22年3月24日(水) 13:30～16:00

場 所 千葉県立中央博物館 会議室

出席者

(委員)

明石議長、鶴澤委員、水島委員、大森委員、茂木委員、秋田委員、  
大澤委員、小野委員、川崎委員、栗原委員、篠原委員、西村委員

(博物館・文化財課)

大熊美術館長、佐久間中央博物館長、府川現代産業科学館長、  
郷田関宿城博物館長、村山房総のむら館長、永沼学芸振興室長

日 程

開 会

博物館あいさつ

議 事

(1)各博物館の地域振興への取組みについて

(2)その他

その他

閉 会

### <博物館あいさつ>

地域振興への取組みは、順調に実施され、文化庁の地域文化芸術振興プランによる事業も順調に実施された。

博物館は、地域振興の拠点としての期待が高まっており、県立美術館・博物館では、平成19年度答申に沿い、3ヶ年に渡って地域振興への取組みを行っているが、今年度も一定の成果をあげたと考えている。

今期のご指導に感謝します。

### <議 事>

#### (1)各博物館の地域振興への取組みについて

①合同企画事業(授業に役立つ博物館プロジェクト)の進捗状況について学芸・普及部会より報告

②今年度の地域振興への取組み、来年度の計画について各館担当者から報告

#### [質疑・意見]

① 合同企画事業(授業に役立つ博物館プロジェクト)の進捗状況について

委 員

・学習キットは、貸し出しを希望校まで博物館の負担で届けてくれるのか。普及には重要なポイントである。

- ・借りる側にとって使い勝手の良い運用を考えてほしい。
- ・カリキュラムに対応し、学習進度に適合したキットを開発してほしい。
- ・学習キットを専用車に積み込んで、学校巡回してはどうか

#### 現代産業科学館

需要の調査を踏まえて対応を考えたい。出前授業とセットで貸し出すことが多いと見込んでいる。

#### 委員

- ・学校単位で貸し出すのか、学級単位か。希望が重複した場合の対応は。
- ・NPOとの連携によるキット活用も可能ではないか

#### 現代産業科学館

担当館とご相談いただきたい。

#### 中央博物館

キット貸し出しは、公用車による出前授業を伴う場合が多いと思う。合同企画事業は有料化に伴う県民還元事業であり、NPOとの連携も検討している。

#### 委員

良い企画であるが、定着継続を図ってほしい。教材なので、学校教育予算も利用しているか。

#### 文化財課

文化財課所管の博物館予算で対応しているが、利活用については指導課と連携してゆきたい。

#### 委員

- ・キット貸し出しの普及定着だけでなく、キットを利用した出前授業の内容を高度化させるよう、長期的にノウハウを研究することが重要である。
- ・普及定着を目指し、「次回は一層のグレードアップを」という利用者のニーズに応え、ファンを増やすよう努めるべきである。良い施策なので、人員・予算など教育委員会あげて対応すべきである。

### ②今年度の地域振興への取組み、来年度の計画について

#### 委員

- ・もう少し地域に出て行ってほしい。街の造型物に美的センスが乏しいものがあり、美的芸術的観点から、まちづくりアートについて発言してほしい。佐倉市美術館の取組みが参考になるのではないか。
- ・病院に芸術作品を展示すると、癒しになり、患者の評判が良いので、検討してほしい。ホテルと連携した「絵画とランチを楽しむ会」は柔軟な発想で良い。学習キットをCD化して学校等に配付し、出前授業の申込みに結びつけるのも良い。他館も導入を検討してほしい。

## 委員

ミュージアムトークが年間140回以上とは、どういう内容か。

## 中央博物館

職員が展示室やバックヤードで専門分野について説明している。

## 委員

「企業との連携によるオリジナルグッズ開発」とは何か。

## 中央博物館

館や企画展の関連グッズを企業と連携して開発したいと考えている。

## 委員

兵庫県からも学校団体が来場しているが、来館理由は何か。

## 中央博物館

兵庫県立人と自然の博物館との連携の成果であるか、理由を調査する。

## 委員

「大学との連携の強化」とあるが、「強化」とは何か

## 中央博物館

研究員が個別に研究機関と連携している。

生物多様性センターとして6大学と連携企画を準備している。

## 委員

- ・個別の連携は当たり前。館として「強化」に何か展望があるのか。中央博物館のユニークさをアピールする方策を執っているのか。館のステータスを上げる取り組みが必要。連携強化について、評価とセットで目標設定すべきである。
- ・「ボランティアの充実」とあるが、研究員の補助業務だけでは不十分。館の新しい事業展開に結びつける必要がある。そういう視点から資料作成しなければ、予算取りに結びつかない。
- ・さまざまな連携実績について、HPに掲載しているか。連携を拡大する一方策である。

## 中央博物館

現状は掲載していない。シンポジウム等のホームページはある。

## 委員

HPで分かるようにすべきである。海外機関との連携は、海外HPにリンクするようにすべきだ。

## 中央博物館

- ・研究員の顔が見える取り組みを行っており、研究員の業績等を紹介する展示コーナーがあり、HPに掲載してゆく。国立歴史民俗博物館くらしの植物苑との組織的連携を始まりつつある。
- ・ボランティアとは「相思相愛」であるべきであり、展示ボランティア・

生態園パートナーはここ2～3年で質量共に向上している。  
大学・研究機関との連携は、講師派遣などで大学側にのみメリットがあり、博物館側への還元に乏しかったので、そのような不均衡を解消してゆきたい。

#### 委員

分館海の博物館と本館との連携に新基軸はあるか。

#### 分館海の博物館

本館の、房総の海の自然誌に関する分野を補完する分館として、多様な博物館事業と人事交流において常に連携している。

#### 委員

房総半島の特性から、海生生物と陸生生物の比較研究や研究連携は重要である。本館と山FM、海博の連携は、そういう視点から為されるべきである。例えば、海洋環境のモニタリングを継続してゆけば、分館と言える。県土全体の自然をモニタリングしていると言えるのか。

#### 中央博物館

開館当初の考え方に立ち戻る必要がある。海の博物館の運営について見直す必要がある。海の博物館は、独立館のイメージが強いが、本館との人事交流を通じて連携を強化しつつある。

#### 委員

連続テレビ小説「ウェルかめ」のウミガメ博物館のように、分館海の博物館の目玉はあるか。

#### 分館海の博物館

ツチクジラ、イッカク、深海サメ、クジラ、イルカなどがある。  
また、房総半島の海の自然誌を実物を中心にわかりやすく展示するとともに磯や理想郷における観察会おこなっている。

#### 委員

房総半島南部はスダジイやマテバシイ等の植林が大半で、なまり節製造の燃料となる。岩礁をくり抜いた生き餌プールの設置や銚製作が行われている。森づくりなど海と陸を結びつける視点から事業展開してほしい。

#### 委員

企業連携が現産館の目玉事業である。インターンシップと連携事業の日程を揃え、企業連携の姿を見せてあげてはどうか。

#### 現代産業科学館

学校側の日程もあるが、連携イベントとの調整も図っている。

#### 委員

博物館ネットワークに現産館が位置づけられる以上、産業技術の紹介のみならず、県内の産業立地集積の歴史的背景や開発による環境改

変にも触れた展示を行ってほしい。

### 現代産業科学館

今年度は産業技術の調査を行い、開発による変遷を写真などの画像で追っている。環境や地域への影響の調査は、今後の課題。

#### 委員

- ・京葉工業地帯が観光スポット化しつつあることにも注目してほしい。
- ・海辺の役割が変わりつつある。
- ・「住民との協働」とあるが、内容は何か。

### 現代産業科学館

住民の協力で環境変化の情報収集を行っている。

#### 委員

プラネタリウムは住民に開放されているか。

### 現代産業科学館

サイエンスミュージアムは館との共催行事に提供している。

会場貸しは、館運営に位置づけられてない。本館と関連しそうなテーマでの共催を広げつつある。

#### 委員

地域振興への取り組みの殆どが継続事業である。少し違う切り口で進めてみるべきである。他館も、新機軸を打ち出してほしい。「授業に役立つ博物館プロジェクト」は新事業として紹介しても良いのではないか。

#### 委員

関宿城博物館で夏季キャンプは出来ないか。

### 関宿城博物館

旧関宿小学校校舎がキャンプ場になっているが、利用頻度は低い。

観光活用としての活用方策は、中の島公園のコブシの開花状況を毎日HPにアップしているが、効果が認められる。

#### 委員

- ・「古文書部門のボランティアの充実を図りたい」とのことであるが、大学が失った教養主義を担う側面が博物館にはある。ぜひ、子ども古文書講座を開催し、「無用の用」を通じて次世代を育ててほしい。
- ・「子ども古文書講座」は良いアイデア。特に、近世文書は分かりやすく面白い。関宿城の目玉にしてはどうか。歴史を分かりやすく紹介し、理解してもらうのも使命である。
- ・江戸～明治大正昭和の水運による物流も、関宿城の目玉であり、しっかりやってほしい。房総のむらとの差別化を図る意味でも重要である。

### 関宿城博物館

水運に関する企画展を開催している。宣伝に努めてゆきたい。

## 委員

- ・メディア媒体等への露出で頑張っている。
- ・伝承技術の体験から、技術を後世に継承していくことに重点を移してはどうか。生物多様性年で、関連行事に里山イニシアティブがあるが、これと連携できないか。里山保存への取り組みで、全国から人を呼べる。
- ・大学が失った教養主義、ものづくり重視が「むら」にはある。学校団体の体験を重視してくれれば、学校も助かる。

## 房総のむら

「むらの達人」を認定し、技術講座を開催して伝承している。職員の高齢化に対応して内部伝承に努めている。

## (2) その他

### 中央博物館

平成 21 年度県博物館協会の会長館である中央博物館から、県博物館協会地域振興委員会が主体となり事業を進めている「千葉県文化財救済ネットワークシステム構築推進事業」の報告書が完成した旨の報告があった。当事業は、平成 21～23 年度を第 1 期として事業を展開するものであり、未指定文化財等、地域の文化財までを視野に入れた事業とし、今後は、大学や地域を巻き込んだネットワークを図っていきたいと考えている。